

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470300411		
法人名	九州キリスト教社会福祉事業団		
事業所名	いずみの園グループホーム		
所在地	大分県中津市永添2744		
自己評価作成日	令和2年9月23日	評価結果市町村受理日	令和3年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和2年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者それぞれが自分らしい生活を続けられるように、心や気持ちに寄り添ったケアに心がけ、温かくサポートできるように努めています。そして、日々の生活の中で暮らしやすさを感じて頂けるように、その人の生活に沿った、安全な環境作りに努めています。安心して満足した生活が送れるように常に気を配り、身体面、精神面、社会面の多方面から総合的に捉える視点を大切にして、ご家族とも相談しながら、ご本人が主体的に生活が送れるように心がけています。また、多くの専門職と連携を図り、重度化や緊急時の対応、身体機能向上・維持に向けて、最大限の支援に努めています。スタッフは日々のケアの中での情報共有、気付きを大切にし、専門職としての知識や技術を深めながら、介護技術のステップアップに努め、サービスの質・向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・感染症予防で、大変な中、少しでも外出の機会を増やしたいとドライブや、散歩など感染症に配慮しながら工夫し、実践していることは素晴らしい。
- ・一人ひとりのおもいや意向の把握に努め、利用者が少しでも楽しい時間、嬉しい時間が増えることを考え職員、家族や専門職の意見を取り入れ介護計画を立てている。
- ・グループホーム独自の6つの理念を掲げ、そのうちの一つを職員全体で、同じ方向性を持ち、一か月の目標ととらえ、振り返り、ケアの向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホールに掲示し、意識して取り組むようにしている。毎月1項目を重点的に取り組み、定期的に振り返る機会を持ち、実践に繋げるように努めている。	グループホーム独自の理念が6項目あり、そのうち毎月、1項目を重点的に目標として取り組んでいる。会議で振り返り次月に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と合同で毎年盆踊り大会を開催し、地域の行事にも参加していたが、今年度は感染症予防により、交流はできていない。	例年行われている盆踊りやフェスタは感染症予防により行われなかったが、散歩中、畑の人や近所の人に挨拶や声掛けを行い、交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、状況報告、支援方法等を報告し、意見・情報交換を行い、理解を得ている。また、ホームページにも取り組みや特色等を掲示し、地域の方々に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や活動、具体的な取り組み等を報告し、地域の理解を得るように努めている。会議で出された意見は運営に取り入れ、サービス向上に努めている。	感染症予防のため、書面での会議となることがあったが、事業所での取り組みや状況などを報告し、家族からは感謝の言葉がもられた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や中津市GH連絡会(3ヶ月に1回開催)を通して、市の担当者との情報交換を行う機会がある。また、必要時の連絡、報告、相談も行い、協力関係を築くように努めている。	市の担当者とは更新書類の相談や問題点など気軽に話せる環境にあり、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会や振り返る機会を持ち、意識して取り組んでいる。そして、ご利用者各々が自由に、安全に行動できる環境作りを努めている。	研修や勉強会を通じ、職員は身体拘束について正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉の拘束についても、その都度時間を置いて話すことにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	感染症予防により、研修等へ参加できていないが、虐待が見過ごされないよう、日常のケアの確認や定期的な日頃のケアを振り返る機会を持ち、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	感染症予防により、研修等へ参加できていないが、必要性がある場合は関係者と連携を図り、活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にグループホームの役割や契約内容について十分な説明を行い、同意を得ている。また、法の改正等で契約内容に変更があれば、その都度説明を行い、承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	信頼関係を築きながら、意見や要望等が出しやすい環境作りに努めている。ご家族には定期的に連絡をして伺うこともある。出された意見等は職員間で共有し、運営に活かしている。運営推進会議でも報告している。	家族の遠慮が感じ取れるなか、事業所側から提案したり、電話連絡を行うことで、家族の意見や要望を聞き、運営に生かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内メールや定例会議、業務時間内で時間を設け意見交換している。また、意見や提案、改善案は職員間で共有し、運営に反映している。	気づきや意見はメールで発信し、記録しているが、意見や要望は、匿名でも出せる環境を作っている。出た意見は会議で検討し、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況や心身の状況等について把握するように努めており、意欲や努力を認め、職員がやりがいを持って働ける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症予防により研修等を受ける機会は減っているが、必要な研修へ参加する機会を設け、職員の意欲とスキルアップを目指している。また、新人教育にはエルダー制を導入している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は中津市GH連絡会(1/3ヶ月)で、同業者との意見・情報交換等を行い、相互の事業所での課題や取組について共有している。職員は今年度、感染症予防により、他施設訪問等の研修が中止となり、交流する機会は持っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族、サービス対応関係者から情報を収集。毎日の生活の中での困りごとや要望等に耳を傾け、職員間の情報共有と気付きを大切にしながら、丁寧に納得できるまで対応し、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームでの生活を理解して頂けるように、細目に状況報告を行っている。ご家族の困りごとや心配ごと、要望等にはその都度状況や対応を伝え、いつでも連絡が取れる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望等にしっかり耳を傾け、必要としている支援を見極め、ご本人、ご家族と相談しながら対応している。また、専門職と連携を図り、状況に応じた必要なサービス利用にも対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	興味のあること、好きなこと(洗濯ものたたみ、食事準備等)がいつでもできる環境を作り、一緒に行いながら信頼関係を築き、お互いに支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族へ近況報告を行い、相談、助言を得て、支援している。また、状態の変化時や緊急時はご家族へ相談、報告し、意向に添えるように対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人等の関係作りは大切にしているが、今年度は感染症予防により制限があり、関係作りは困難になっている。	感染症予防対策の中、web面会や電話、ガラス越しでの面会を可能とし少しでも馴染みの関係を断ち切らない努力をしている。また、ドライブで、馴染みの場所へも出かけている。最近は面会可能となり、利用者の笑顔も違ってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の関係は職員間で情報共有し、孤立せず、穏やかに過ごせるように位置関係等に配慮している。また、活動を通してお互いに関わりを増やし、楽しく過ごせるように努め、意思を尊重しながら、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も受け入れ先への訪問等を行い、必要に応じた相談や支援に努めている。また、入院により契約終了した際は退院後の受け入れ先との情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーション作りに努め、希望や意向が汲み取れるように努めている。困難な場合は、普段の様子や行動等で気付きを持ち、ご本人の気持ちに添えるように支援している。	入浴時や、職員と1対1になった時思いを伝える人が多く、それを毎日のメールで、職員間で共有し記録している。中には寝言でみんなと仲良くしたいだけと訴える人もいて、本音ととらえ職員で話し合った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室にはご本人の馴染みの物を持参して頂いている。また、ご家族からの情報や入居前のサービス利用担当者、関わりの深い方等から情報を提供して頂き、生活歴などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の会話や行動等の変化に気をつけながら、職員各々の気付きや情報を共有しながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望、状態の変化、毎月担当職員のモニタリング、各々職員の意見や気付き、また、専門職からのアドバイス等も反映し、介護計画書を作成している。	担当職員、本人家族からモニタリングをし、必要時その都度見直しをして介護計画を立てている。利用者が楽しい生活、嬉しい時間を作れるよう支援したいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の変化や気付きは随時個別に記録、または社内メール等にて情報共有しながら、日々の実践や介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関やリハ職派遣事業(市の委託事業)等により、専門職から助言、指導を受け、その時々に必要なニーズに対応している。また、家族の状況にも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症予防により地域への外出等は控えている。制限がある中、安心して楽しみのある暮らしができるように、要望や状況によって、感染症防止に配慮しながら、外出支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人、家族の希望で決めている。協力医療機関の定期的な往診により、体調の変化等早めに対応できている。突発的な受診は主治医やご家族と相談して対応。受診結果やその後の経過等報告している。	本人家族の希望で、協力医の訪問診療を受診している人が多い。週2回の協力医の訪問があり、適切な医療が受けられている。家族の支援で受診する人には日ごろの様子を詳しく説明し、受診後の報告も聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	業務の委託契約をしている訪問看護と連携を図り、日頃の状況や状態の変化、緊急時は相談、連絡、対応や病院受診の必要性についての指示を仰ぎ支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が病院へ付き添い、本人の生活状況や既往歴など伝えている。そして、入院中も定期的に訪問し、情報交換を行い、病院関係者と連絡、調整を行い、早期に退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的にご家族へ状況報告を行い、理解を得ながら、重度化した場合の対応について相談し、主治医とも話し合い、方向性を考えながら支援している。また、事業所としてできることも説明しながら、意向を確認し、方針を共有している。	入居時に事業所で出来ることを詳しく説明し、重度化した場合の対応について、本人にとって一番良い方法を家族や主治医とも相談しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	園内研修や事業所内の勉強会等で急変時の対応や応急手当について学ぶ機会がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的実施している法人全体での防災訓練には、地域の方も参加し、協力体制を築いている。災害時の備品や食料、飲料等も確保できている。(今年度は感染症予防により、緊急連絡網のみの訓練)	月2回の防災訓練には消防署、地域の人の参加もあり、発電機や、備蓄も備え、地域の福祉避難所となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉使いを基本として、1人ひとりに合わせた言葉かけに心がけている。また、誇りやプライバシーを損ねないように、他者への配慮にも心がけている。	誇りやプライバシーを損ねないよう丁寧な言葉使いを基本としている。時には方言で親しみやすい話し方をすることも必要と考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをしっかり図り、思いや希望をその都度受け入れ、表しやすいように支援している。また、状況に応じて声かけを工夫し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きな場所で好きなことをしながら過ごして頂く等、意向を伺いながら1人ひとりのペースを大切にしている。また、外出などのニーズにも、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を大切にして、好みの衣類、季節感がある清潔な衣類を身につけて頂けるように支援している。また、ご家族の要望にもそい、身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備を楽しみされている方が多く、各々得意なことを一緒に手伝って頂いている。また、1回/月の食事作りでは、希望のメニューを伺い、一緒に作っている。	誕生日や行事の時などは希望に沿った献立とし、日ごろは、盛り付けや配膳を職員と一緒にやっている。ごはんや汁物は暖かいものを事業所で手作りし、職員も同じものを食べている。また、月に一度はお鍋や焼きそばなどみんなで作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事状況、摂取量は毎日の記録で把握し、必要な摂取量が確保できるように、1人ひとりの状態に合わせた形態での提供している。状況に変化があった場合は柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に義歯洗浄や歯磨き、うがい等の声かけ、見守り、必要に応じて支援している。また、状態に応じた物品の使用と、定期的に義歯消毒を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を理解し、他者への配慮、声かけ等を工夫しながら、定時、または随時排泄誘導している。失敗やオムツ使用減に努めている。	排泄はパターンを把握し、タイミングを見計らって自室のトイレに誘導している。夜間おむつの人も睡眠を妨げないよう配慮しながら交換を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、牛乳、ヨーグルトの提供、水分摂取量にも気をつけている。また、それぞれに応じた身体を動かす活動への働きかけを行い、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後の時間帯で毎日実施。意向を確認し、希望にそった物品等を使用している。安心して入浴が楽しめるように、安全面に配慮しながら、それぞれの状態にそった支援に努めている。	お風呂は毎日準備し、誰でも入れるようにしている。それぞれの状態に合わせた入浴方法を実施し、リフトを使用する人もいる。入浴したくない人には声掛けの方法や、無理強せず、待つことも大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大切にしながら、状況に応じて休息が必要だと感じた場合はゆっくり休んで頂いている。夜間、眠れない時は安心して眠れるように個別対応することもある。寝具の清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬を把握できるよう説明書は個別のファイルに綴じている。服薬変更や症状の変化、服薬支援は記録等で確認し、情報共有している。健康管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと、好きなことにいつでも取り組める環境を作り、それぞれが役割を持ち、楽しみ、気分転換が図れるように支援している。また、嗜好品も他者へ配慮しながら、楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防により制限がある中、要望のある方は、ほぼ毎日夕方ドライブ支援をしている。また、天候の良い時は敷地内を散歩し、戸外に出る機会が増えるように支援している。	感染予防に配慮しながら、法人内を散歩したり、ドライブに出かけたり、要望に応じて戸外に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたいという欲求には柔軟に対応している。ご家族の理解を得て所持して頂いているが、使用することは殆どない。お金を使いたいと希望がある場合は支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別に定期的にご家族への電話を取りついでいる。また、ご家族の要望で毎晩、携帯電話でご本人と話して頂けるように支援している。手紙が届くとご本人へお渡し、一緒に読むこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	物品等の置き場所を可能な限り変更せず、自由に行動できる動線を確認し、照明や温度調整に配慮している。季節感や生活感を感じて頂けるように花を飾り、細目に掃除を行い清潔保持に努め、居心地よく過ごせるように支援している。	廊下には八面山、耶馬溪橋といった昔からの名所の絵画が飾られ、ふるさと感じられる。リビングと食堂をキッチンをはさんで区別し、気持ちの切り替えが出来るよう配慮されている。テーブルには花を飾り、季節感が感じられ、掃除も行き届き、安心して、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所を中心して両サイドに共用空間があり、好きな場所で一人でゆっくり過したり、椅子等の配置を工夫し、気の合う利用者同士で過ごすことができるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものや、好みのもを自宅から持ち込み、居心地よく過ごせる環境作りに努めている。	自宅で使っていた椅子やテーブル、こたつや絨毯を置き、家族が来ればゆっくり実家でくつろいでいる錯覚をするような空間となっている。実際に娘さんや孫さんが来たときは自室でお茶を飲み、話す光景があるようである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮しながら、理解しやすい環境作りに努めている。居室入口には自分の名前を確認できるように氏名を記載、または目印となるような飾りつけをして区別がつくように工夫している。		